

世界とつながる ～ネパールを舞台に～

学校所在府県：兵庫県

学校名：小野市立小野中学校

名 前：宮本 啓（音楽）

実践教科：道徳・音楽・（展示）

指導時数：4時間（展示は約3か月間）

対象学年：7年生（中学1年生）

対象人数：255人（7クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

海外に足を運ぶと、そこにはいつも気づきと発見がたくさんある。「自分の目で世界をもっと見たい」。そんな思いでこの研修に迷うことなく応募した。日頃から海外に関心を持っており、自分の人生で可能な限り、世界の国々を訪れ、その国の文化を体験し、知りたいと思っていた。そして中学校教員としてできる国際理解教育を実践していきたいと。しかし、日々の多忙な教員生活の中で、そのような思いが実現する様子はなかった。私自身にとって、この研修は自分を変える一つのきっかけとなる大切な経験となった。

ネパールで過ごした日々は、新鮮でたくさんの刺激を受けた。インフラの未整備な環境、劣悪な交通状況や大気汚染など、一見すると大変そうとすることがたくさんある。しかし、その中で生活する人々を見ても笑顔を絶やさずに何事にも前向きに生きる姿を見ることができた。様々な場面で、今回の研修での自分の大きなテーマであった「幸せとは？」という問いを自分自身に問いただす機会が多くあった。

また、現地の奥地にある学校での交流授業では、ネパールの子どもたちと触れ合う非常に意義のある体験となった。「音楽に国境はない」という言葉の通り、音楽を通して互いにつながり合えた瞬間であった。

この貴重な経験を、これから学校現場で伝え広げていきたいと考えている。まずは、世界を知ることが多感な子どもたちにとって一番大切であると思う。

今回の研修を通して、共に意見を伝え合い高め合える仲間となった先生方、この研修で出会えた全ての方々に感謝し、教師海外研修の学びを今後幅広く生かしていきたい。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

この研修を10日間で終わらせず、その後も世界とつながりを子どもたちに持たせたいと考えた。

本校の生徒は、日頃から海外を身近に感じる経験が乏しい。しかし、社会はグローバル化が進み、本校でも外国籍の生徒も少しずつ増えている現状がある。中学生の時期から少しでも国際意識を高めさせ、ネパールとつながるきっかけを作りたいと思った。

事前研修の中で見た「僕はこのままいけば、このままです。」という言葉。この言葉は研修中もずっと胸に残っていた。開発途上国での貧困のスパイラルは、そう簡単に抜け出せない。そんな状況を一言で言い表しているように感じた。多くの生徒は、開発途上と呼ばれる国々についてほとんど知識はない。海外と聞くと、どうしても欧米に偏る現状がある。また、海外は自分とは全く関係のないことと考える生徒も少なくない。だからこそ世界の中の日本人として、日本だけでなく様々な世界の国々の良さにも気づくことができる人になってほしいと強く願う。

また、音楽を用いた交流実践も行った。ネパールの同世代の子どもたちに贈る歌を作ろうと取り組みである。ネパールの学校教育には、音楽・美術などの日本という実技教科の授業はない。また、ネパールの学校には校歌がないと現地の青年海外協力隊の方から伺った。では、その学校でこれからも気軽に歌い続けていける愛唱歌を作ろうというのが私の思いであった。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 (学年道徳) ネパールについて知る 「“幸せ”とは何だろうか？」 *ネパールの概要、人々の暮らしについて知るとともに、“幸せ”の多様性に気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ●導入として「レヌカの学び」を活用し、自分の中にある思い込みや偏見に気付く。 ●国旗、人口、宗教、日本との関わりなどから、ネパールの基本的な情報についてスライドを通して考える。 ●ネパールで撮影した写真や動画から日本文化との違いを感じ、ネパールの暮らしを知る。 ●自分たちが考える幸せ、ネパールの人々の幸せ。多様な“幸せ”の価値観があることを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント(資料1) ●「レヌカの学び」 ●教材プリント(資料3) ●ネパールで入手したモノ
2～4 時限目 (音楽) ネパールへ贈る歌 「音楽で世界とつながる」 *音楽を通じた国際交流を図り、世界とつながる機会を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ●前回の道徳授業で紹介した学校へ歌を作って贈ることを発表する。 ●曲のテーマは「仲間」。音楽科の私が作曲をし、生徒たちが歌詞を作る。 ●ネパールの同世代の子どもたちへメッセージを込めた歌詞を考える。 ●完成後は歌の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教材プリント(資料4)
展示 ネパールに触れる展 *ネパールのモノに触れ、関心を高め、今回の学びを一層深める。	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問地の写真や現地から持ち帰ったモノを見せながら、現地の様子などを説明する。 ●自分たちと同じ世代の青少年が置かれている現状を知る機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現地で撮影したたくさん写真 ●ネパールで入手したモノ(新聞・衣装・笛・本など)

3. 授業の詳細

1 時限目：(学年道徳)ネパールについて知る「“幸せ”とは何だろうか？」

ねらい…ネパールの概要、人々の暮らしについて知るとともに、“幸せ”の多様性に気づく。

◆内容◆

- ①ネパールについての概要(地理、国旗、人口など)や日本との関わり(在日ネパール人数など)について説明をする。
- ②ネパールで撮影した写真や動画を提示し、ネパールの暮らしをイメージしやすくする。
- ③ネパールの暮らし、人々の姿を見て幸せといえるのか考える。(資料2)
- ④授業の学びを振り返って感想文を記入し、プリントを提出する。

生徒の反応

- ▶実際のネパールの町の様子などを撮った動画を見せることで、現地の様子を身近に感じられた生徒が多かった。特に道路の真ん中を野良牛が歩くシーンには、大きな歓声が上がった。世界にはまだまだ知らないことがあると感じたようだ。

生徒の感想

- ▶今日の授業を通して「幸せ」という言葉に対する見方が変わりました。贅沢をして豪華な暮らしをすることが「幸せ」だと思っていましたが、当たり前なことが当たり前で家族や友人などに支えてもらい協力できることが「幸せ」なんだと私は考えました。世界には私たちの当たり前なことができていない人もいます。しかし「だから不幸」ではなく、幸せを求めて一生懸命生きている人がいるということを中心に生活していきたいです。
- ▶日本は、豊かさと引きかえに心の温かさを失ってしまったと思う。だから貧しい国の人たちより、心がとても貧しいと思う。本当の「豊かさ」は心の中にあると思う。
- ▶僕はネパールの生活などをほとんど知らなくて、どんな生活をしているのが興味がありました。先生の撮った動画や写真を見て「大変だ」と思いました。でも先生の話聞いていくうちにただ大変ではなく、大変だからこそ協力、助け合いなどが大事で、それによって近所の人でも家族のように仲が良いんだとわかりました。
- ▶ネパールと聞くと、その国のイメージがわいてきたけれど、そのイメージは私の偏見であることに気が付きました。実際にネパールについて知ると、助け合いながら一生懸命生きている温かい人がたくさんいることがわかりました。幸せというのは、貧しさ、豊かさなど関係なく、心で決めるものなんだと気が付くことができました。



授業の様子①



授業の様子②

◆所感◆ まずは、ネパールについて関心を持てる授業づくりを心かけた。そして、自分自身の本研修の大きなテーマである「幸せとは」について考えを深めさせたかった。

実際にネパールの様子を写真や動画で見ると、ネパールの生活が日本とは全く異なり、あらゆる面で不便を感じる生徒が多かった。また、開発途上国というだけでマイナスのイメージを持つ生徒が多く、自分の中に偏見などがあることに気づいた様子であった。しかし、ネパールの人々の表情や姿、生活の様子を見ることで、ネパールにはネパールにしかない「幸せ」があると感じた生徒が多数見られた。ネパールでの人々の深い繋がりに感動を受けた生徒もあり、幸せの価値観について考えることができた。

反省として、本研修中にさせて頂いた交流授業やホームステイを生かし、インタビューなどを通してネパールの方々の生の声を日本の生徒に届ければ、より身近に考えることができたかと感じた。

2～4時限目：(音楽) ネパールへ贈る歌「音楽で世界とつながる」

ねらい…音楽を通じた国際交流を図り、世界とつながる機会を持つ。

◆内容◆

2時限目

- ① 道徳の授業で紹介したネパールの学校に歌をプレゼントすることを伝える。
- ② 曲のテーマは「仲間」。このテーマを元に、ネパールの子供たちへ贈るメッセージとして歌詞を作る。

3 時間目

- ①完成した曲の発表と練習
- ②歌の録音・録画

4 時間目（※これから実施予定）

- ①歌を送ったネパールの学校からの反応を知る
- ②今後の交流について検討する

生徒の反応

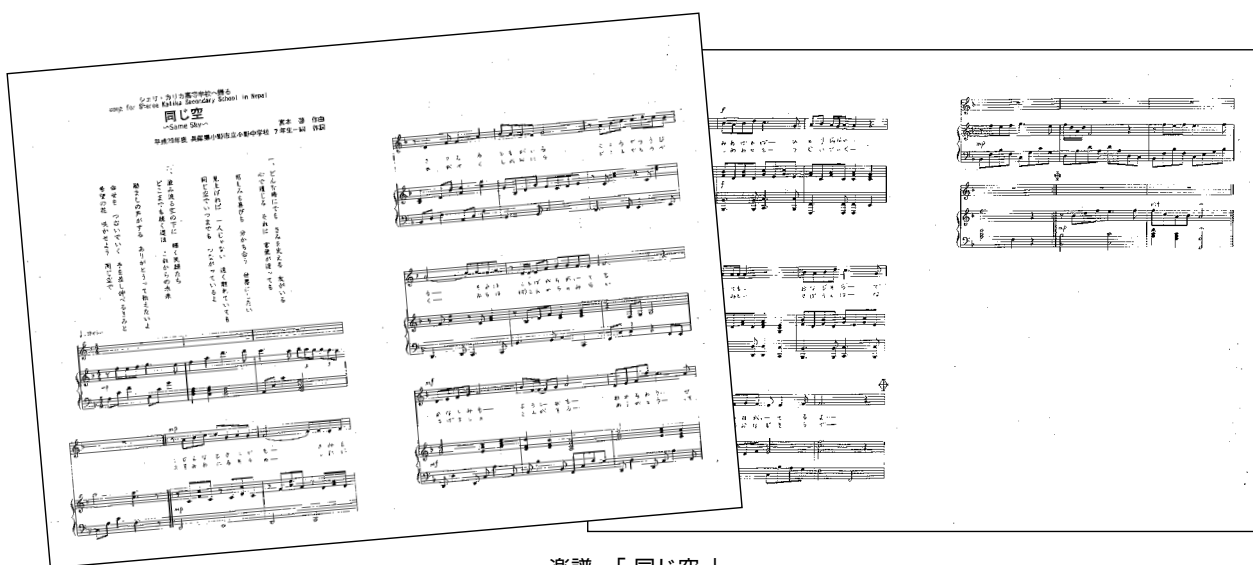
- ▶ネパールの学校と交流を持てるということに嬉しさを感じる生徒が多かった。
- ▶「私の考えた言葉が歌詞になっている」と喜んでいる生徒もいた。
- ▶ネパール語で是非歌いたいという声も上がった。

ココがポイント

作詞をしようとするのが難しく捉えてしまうため、「ネパールの子どもたちへメッセージを贈ろう」というスタンスで取り組んだ。そのメッセージを歌詞として使用した。

◆所感◆ 歌を作るというアイデアに生徒たちは興奮した様子で、賛同して取り組んだ。歌を通して同年代のネパールの子どもたちへ、自分たちの思いを伝えられるということに意欲がより高まったと考えられる。

「みんなで歌を作ること」「ネパールの学校と交流を図ること」など新たな経験をする機会となった。また、音楽科教員として、音楽を通して何か国際交流ができないか模索をしていたため、自分にとっても大変勉強になる経験となった。今後も交流したネパールの学校で“校歌”のように、これからも自分たちの歌として歌い続けて欲しいと願う。



楽譜 「同じ空」

展示：ネパールに触れる展

ねらい…ネパールのモノに触れ、関心を高め、今回の学びを一層深める。

◆内容◆

- ①学年道徳をした日から1年生の階の廊下に展示を行う。
- ②展示物は、撮影した写真を集めた掲示物、ネパールで入手した新聞や服、笛、本など。



展示写真

生徒の反応

- ▶ 実際のモノを手にとって興奮した様子であった。特に新聞などは、現地の様子やネパール語に関心を持っていた。
- ▶ 写真の掲示物には、私の研修中の体験に興味を持ってたくさんの生徒が見てくれた。

◆所感◆ 学年道徳の授業を終えてすぐに展示をしたため、非常に多くの生徒が展示に興味を持っていた。ネパールでの生活の写真からは、近くで見ることでより国の状況（道路の様子や食べ物の内容など）が具体的にわかり、驚いていた生徒がいた。また、実際にモノに触れることで、遠い国という印象から少しは親しみを持たったようであった。



展示の様子①



展示の様子②

4. 成果

教師海外研修を通して、自分自身が発見の連続であり、新たなことにチャレンジする機会となったと考えている。この経験を元に、目の前にいる子どもたちへ自分が感じたこと考えたことを今後とも伝えていく。

今回の事後の授業実践で得た成果を2点あげる。1点目は、「広い国際感覚を持つ」ということである。海外に興味を持っている生徒はいても、自分と切り離して考える生徒が非常に多い。また、開発途上と呼ばれる国について知っている情報は、偏ったものや一部分のものしか持っていないと言えるだろう。そのため、まずは自分たちの持っている偏見や思い込みに気付かせたかった。そして、「貧困＝不幸ではない」ということを子どもたちに伝えたかった。道徳の授業後には、たくさんの生徒から「自分が勝手に決めつけていることがたくさんあった」や「自分が考えていた幸せは、本当に幸せと呼べるのだろうか」などの多様な意見が出され、深く考えることができた生徒がいた。「自分から様々な国に関心を持ちたい」「もっと世界を知りたい」という思いをこれからも大切にしてほしい。

2点目は、「世界とつながるきっかけ」を持たせたことである。狭い視野の中で生活をしている中学生が多く、世界と自分のつながりを感じる機会はほとんどない。しかし、海外に関心や興味を持っている生徒はたくさんおり、何か機会があれば関わりたいと考えていた。日頃の生活では、外国の暮らしや海外情勢などを、メディアを通して目にすることがある。そのような時、自分と切り離して見ていた姿から、同じ世界に生きる一人として見る姿へ変わってほしい。そして、中学校時代にネパールへ歌を贈ったという経験に自信を持ち、「世界と通じ合う喜び」を広めていってほしいと思う。

5. 課題

この授業実践で留めるのではなく、継続した取り組みを行っていくことが大切だと思う。生徒各々が興味を抱いた事柄に対して、調査し発表・交流をしていく授業を展開していきたい。生徒が主体となって、そこから新たな発見がまた生まれていき、国際的な視野が広まっていくことを期待している。まずは、自分自身も「知る」ということを大事にし、そこから掘り下げていければと思う。生徒たちが持っている固定概念や偏見等を、生徒自らの体験によって気付くことができる、そのような取り組みを今後も実践していきたい。

また、日々の生徒指導や部活動指導、学校行事への準備などの多忙な生活の中で、今後も開発教育という分野に自分の持ち味を出せる教員でいたいと考えている。

参考資料

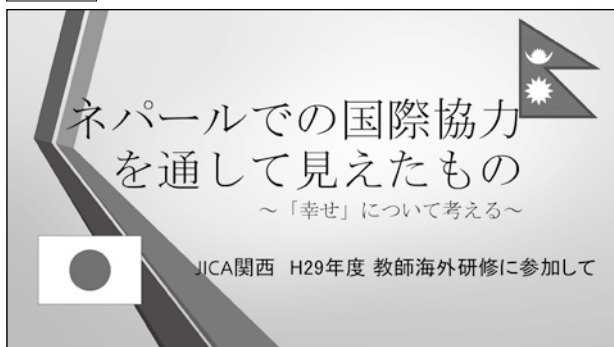
・参考文献

「レヌカの学び ～自分の中の異文化に出会う～」 土橋 泰子 開発教育協会 2011
2016～17 地球の歩き方 「ネパールとヒマラヤトレッキング」 ダイヤモンド社 2016

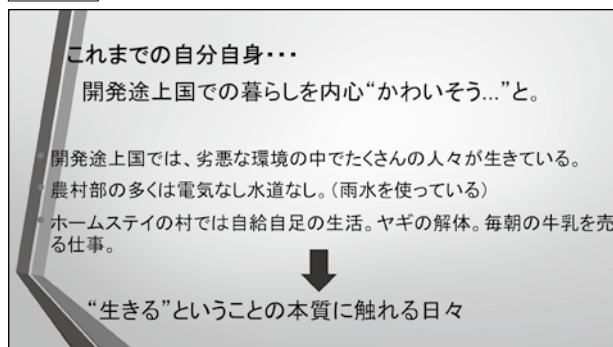
・参考ホームページ URL

<https://www.jica.go.jp/about/index.html> (JICA ホームページ)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nepal/index.html> (外務省ホームページ)

資料 1



資料 2



資料 3

ネパールの生活に触れて
7年()組()番()

キーワード：世界、開発途上国、先進国、貧しさ、豊かさ、幸せ、文化の違い
※上記のキーワードを使う必要はありません。授業を振り返る参考に。

1. ネパールの生活を知り、どのように感じましたか。

2. 今日の授業の感想をまとめよう。
(授業を通して自分の考え方が変わったこと・これから私たちが世界のためにできることなど)

資料 4

音楽で世界とつながる
～日本からネパールへ送る歌～
7年 組 番 名前

9月末の学年道徳でネパールの暮らしや国の様子について伝える時間をもちました。“幸せ”をテーマに一人ひとりが考えを深めました。
そして、ネパールを訪問した学校に、音楽を通して何かできればと考えました。そこで、みんなで歌を作り、ネパールの子どもたちへその歌を届けたいと思います。音楽を通して国際交流を!

・曲のテーマ【仲間】
・曲のタイトル【同じ空】(予定)

国や文化、習慣がたとえ違って、見上げる空はみんな同じという意味。
世界中の人々が手を取り合って、助け合って生きる世界にしたいという思いを。
生きている国が違って、言葉が通じなくても、心で通じ合える仲間のはず。

こんな想いを込めて

ネパールの同じ年代の子どもたちへ送るメッセージ! (この文章を歌詞に使います!)